

モニタリング計画（素案）

これまでの掘削地は様々な湿地再生手法を導入してきたため、掘削完了後、2～3 年程度の期間で植物、地下水位を中心にモニタリング調査を実施し導入した湿地再生手法の妥当性を把握してきました。

今後は、調査拠点として2つに分けた範囲を継続的にモニタリングし、長期間での湿地環境の変遷の把握を考えています。また、これまでの調査は植物、地下水位を中心としていましたが、昆虫類、水鳥の餌生物（魚類、水生生物など）の調査も同時に実施していくことを考えています。

なお、平成 29 年度に完成する 4 箇所の掘削地までは、これまでどおり完成後 2～3 年程度のモニタリング調査を実施する予定ですが、平成 30 年度以降に完成する掘削地については、従来のモニタリング調査は実施せず、状況に変化が生じている場合は必要に応じて調査を追加していくことを考えています。

表 今後モニタリングを予定している調査拠点

調 査 箇 所	概 要
調査拠点 1 栃木市フィールド （大型鳥採餌休息環境 実験地及び湿潤環境形 成実験地(3)）	水鳥の採餌環境として広大な池を創出し、隣接して広大な湿地環境を再生したエリアである。掘削前には昆虫類調査も実施している。現状で人為的な介入がなされておらず、自然の状態での変化を把握することができる。
調査拠点 2 小山市フィールド （環境学習フィールド (3)及び拡張部-1）	以前に創出された池、現状を維持したヨシ原を含み、新たに創出した大小の池を有するエリアである。市民団体・自治体により積極的な外来種除去が実施されており、人為的な介入も含めた湿地の再生状況を把握することができる。

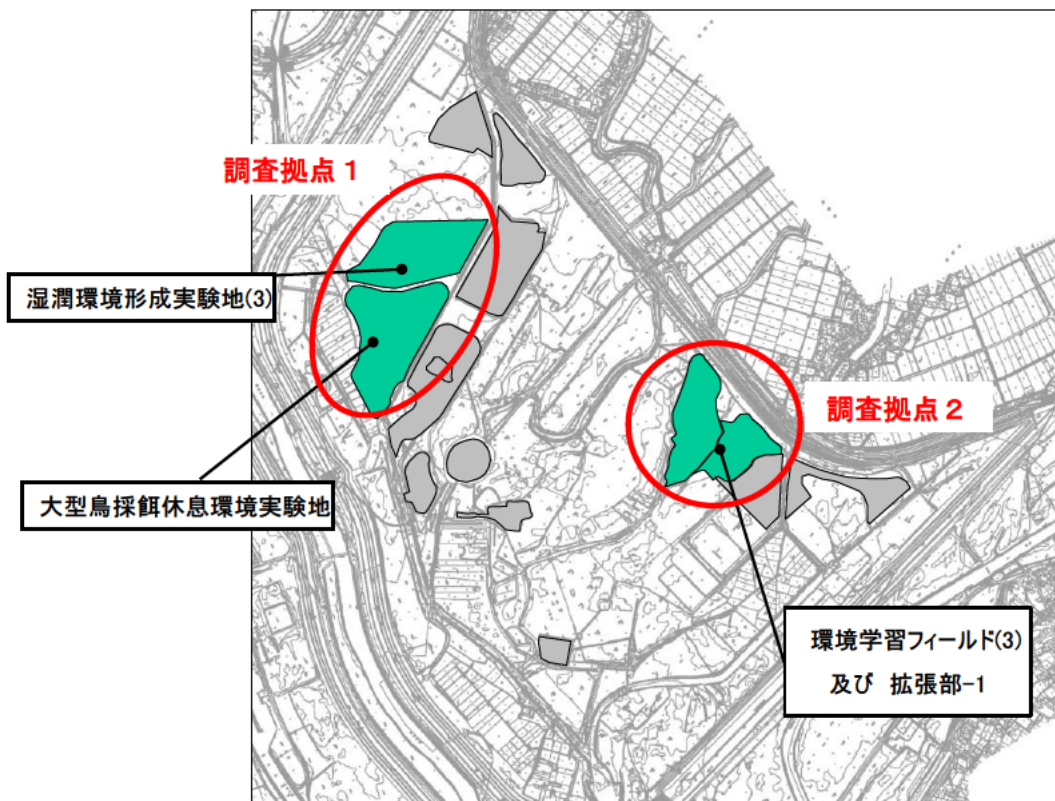


図 今後モニタリングを予定している調査拠点